

最近になって「築地にイオンは本当に出てきますか？アウトレットの看板も立ちましたね！」とよく聞かれます。今まで何度かこのような質問にこの F A X 通信で私見を述べさせて頂いて参りました。

繰り返しになると存じますが・・・

今、日本の経済では製造業はかなり回復を致しましたが、国内消費は 10 年位前は 180 兆円あった売上は現在では凡そ 130 兆円と大きく落ち込んだままであります。更に、なりふりかまわぬ安売り競争は経営哲学も理由も見当たらない過当競争となってデフレ社会を作る要因となっております。

スーパー業界は 10 年サイクルで興亡を繰り返すと云われ、ヤオハン、マイカル、ダイエー等数多くのスーパーが脱落してきました。西友も年内にはウォールマートに看板が変わります。イオンはダイエーを傘下に治めて 5 兆円を大きく超えて世界のベストテン入りしておりますが、5 年前 1,300 円の株価は時価総額 1 兆 4 千億円と評価されましたが、今の株価は 800 円台、時価総額は凡そ 8 千億円と大幅に資産を減らし、有利子借入金は 1 兆 2 千億円と言われます。この額はスーパーの借入金限度と言われ、ダイエーが崩壊した借入金と同額であります。

100 万都市以外の地方都市の S C はほとんど赤字となっております。

こうした状況の中でヨーカドーはなぜ再び市原へ出店を決意し、イオンはなぜ築地をあきらめないのかと問われるならば・・・今までは外資系スーパーは、中々日本の消費文化になじめず、カルフルを始めとして撤退をされると思われておりましたが・・・

日本国内スーパーの過当競争によって自滅するのをじっと待っていた感があります。

このところ叩き合いによって体力を消耗した日本のスーパーを次々と買収して急拡大を致しております。

ウォールマートを先頭にメトロ（独）テスコ（英）コストコ（米）等、世界の小売ランキング上位の小売業たちであります。

市原五井も木更津築地も出店を止めれば、外資勢がなだれ込む危険性が強いからと思います。出店するのも地獄、退去するのも地獄と思われませう。

イオンが重荷のダイエーを切り捨てられないのも同じ悩みと思います。

先日ヨーカドーの伊藤雅俊氏が「もうナショナルチェーンの時代は終わる。地域に密着して 10 店位の小売店が求められる時代です。」と言われます。

今全国の小売業は猛烈な生き残り競争の中で、地方の中小スーパー、小売店が頑張ってナショナルチェーン店に打ち勝っている店がいくつも見られるようになりました。

商いは他から与えてくれるものではありません。自ら決意、実行するものに神は何かを与えてくれる様です。

長崎県出身の福山雅治（大河ドラマ「竜馬伝」主演）が、「私は長崎のまちを捨てて東京へ出てきた。今思えばあの長崎の町が悪いのではなかった。私自身が足りないものがあったからです・・・」と言っておりました。

不満があるならば政治や社会のせいではなく、自分の不足しているものを見つけ出す努力をした方が解決は早いかもしれません・・・。